ENVIRONMENTAL REPORT

環境報告書

2005

フジッコ

【目　次】 CONTENTS

ENVIRONMENTAL REPORT

目　次

■ごあいさつ　2

■環境基本方針　3

■環境目的・目標　4

■2004年度の環境負荷低減のための活動について

・生産工場における環境負荷の概要　5

・環境マネジメント組織　6

・環境目標の達成状況　7

・環境負荷低減のための設備導入　11

・環境教育・地域貢献活動　12

■環境保全に関する取り組みの歴史　13

■事業所近隣の方からのご指摘について　15

■2005年度の目標と行動計画　16

■会社概要　17

対象範囲

この「環境報告書」は、フジッコ株式会社の生産部門（和田山工場、関東工場、鳴尾生産事業部1・2課、鳴尾生産事業部3課、東京生産事業部）、本社部門、および国内関係会社の生産部門（フジコン食品（株）、フジッコワイナリー（株）、フジッコフーズ（株））の実績および取り組みをもとに編集しております。

なお、横浜工場、加古川分工場が、新たに稼動を開始いたしましたが、通年の実績がないため対象から除外しております。

対象期間：2004年4月1日～2005年3月31日

この環境報告書は、フジッコ（株）環境管理委員会で編集いたしました。

ごあいさつ

21世紀は、“環境”と“健康”の世紀。当社グループにおきましては、2001年に新しい企業理念「お客さまとともに　新しい食文化を拓く健康創造企業を目指します」を制定し、安全で美味しい商品と健康情報を付加したサービスの提供を通じて、一人でも多くの人々の健康に役立つ会社になることをより明確化いたしました。

昨今では、企業の社会的責任が注目されております。企業の社会的責任とは、株主をはじめ、顧客、従業者、地域社会等の当社グループを取り巻くステークホルダー（利害関係者）の皆さまにとって、経済的、社会的、環境的に有益となる経営を推進することと認識しております。

したがって、環境問題に対する取り組みは、企業が社会的責任を果たす上で重要な活動のひとつであると位置づけております。これまで生産部門においてISO14001の認証取得をはじめ、環境負荷の低減に努めてまいりましたが、今後は物流部門、開発部門、本社部門をはじめ、全従業者の環境問題に対する取り組みを一歩一歩着実に進めてまいります。

このたび、2003年、2004年に引き続き、「2005環境報告書」を発行することができました。本環境報告書は、環境コミュニケーションのツールとして活用し、報告の回数を重ねるごとに内容の充実を図りたいと考えております。

今後とも事業活動とあわせて、当社の環境に対する取り組みにご理解をいただき、皆さまからの忌憚のないご意見を賜れば幸いに存じます。

2005年8月
フジッコ株式会社 代表取締役社長
福井正一

企業理念

お客さまとともに　新しい食文化を拓く
健康創造企業を目指します

■環境基本理念

フジッコグループは、『お客さまとともに　新しい食文化を拓く　健康創造企業を目指します』の企業理念の下、健康という付加価値をもった商品をつくり出しております。
健康という付加価値をもつには、まず、素材と従業者が健康でなくてはなりません。そのためには、地球環境が健康であることが必要不可欠であります。近年、私たちの住む地球は、科学技術の発達と生活環境の変化によって汚染が進み、食品の安全性を含め生活環境の破滅を招く事態となっております。
ここに、食を通じて社会に役立ちたいと願うフジッコは各工場において環境に配慮した生産活動を行い、地球環境の改善ならびに地球環境への負荷軽減に資するよう、たえず努力することを誓います。

環境行動指針

1	事業活動にかかわる環境側面を常に配慮し、環境マネジメントシステムを構築することにより環境保全活動の継続的な向上を図ります。
2	食品工場の宿命として水の使用量が多いこともあり、水質汚濁防止のため工場排水を重点的に管理し、地域社会との共生を図ります。
3	主な消費エネルギーである電力や重油の節減に取り組むとともに、廃棄物の低減化、リサイクル、リユースにも努力します。
4	環境基本法を中心とした環境関連の法律・規制・協定を遵守するとともに国際環境規格を守ります。
5	環境目的、環境目標を設定し、毎年見直しを行って改善に努めます。

生産部門における環境側面の調査結果より、
フジッコグループ全体で取り組むべき環境管理活動を
環境目的および環境目標として定めました。

環境目的

5ヵ年の中期目標を環境目的として定め、数値目標の達成に向け
グループ全体で取り組んでおります。

1	水の使用量を削減する。 ▶▶▶ 2001年度を基準として、2006年度までに出荷重量対比で5%削減する。
2	食品廃棄物の再生利用等を促進する。 ▶▶▶ 2006年度までに、食品廃棄物の再生利用等の実施率を100%にする。
3	電力消費量を削減する。 ▶▶▶ 2001年度を基準として、2006年度までに出荷重量対比で5%削減する。
4	石油系燃料（灯油・重油）の使用量を削減する。 ▶▶▶ 2001年度を基準として、2006年度までに出荷重量対比で5%削減する。

環境目標

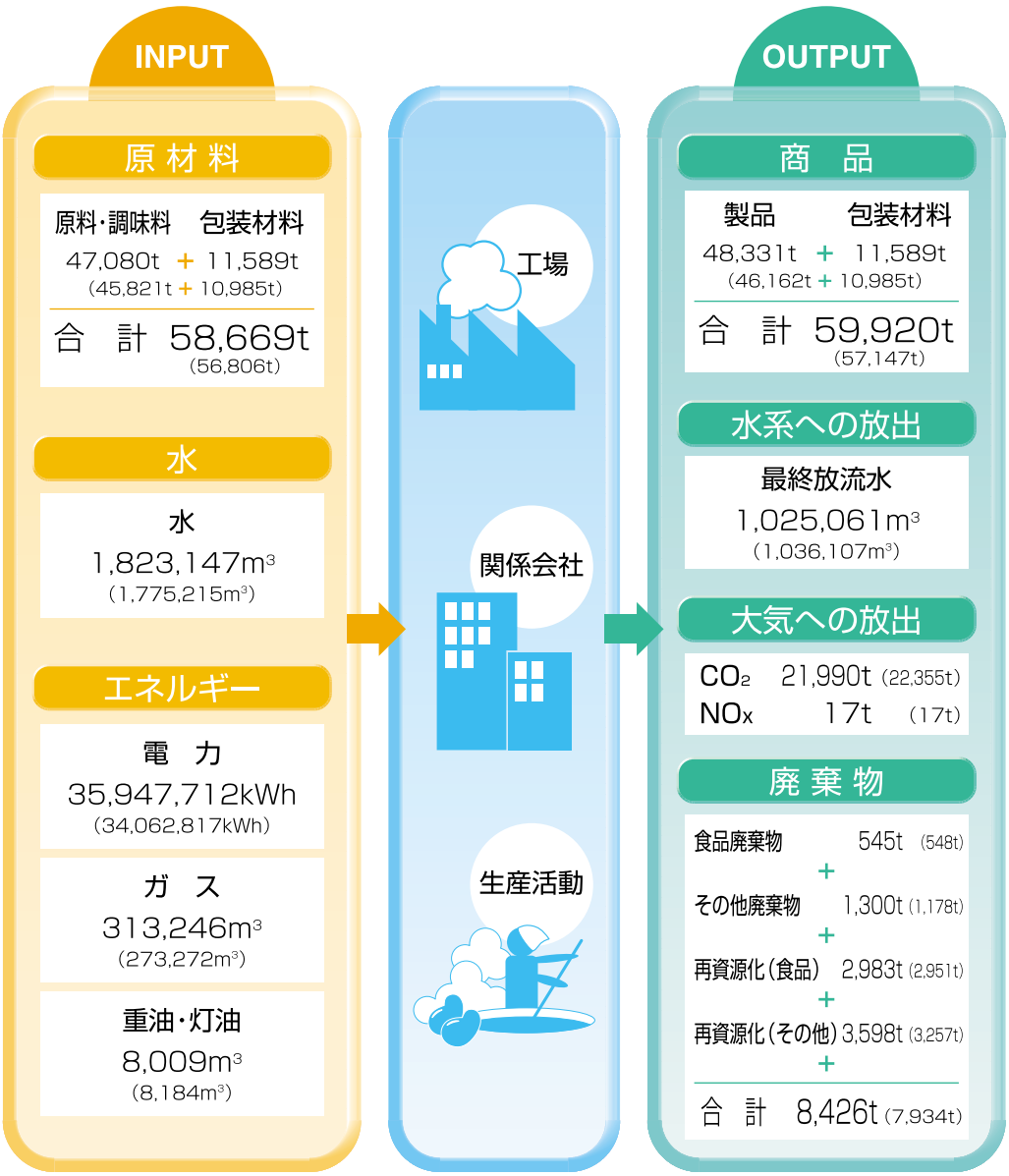
2004年度の数値目標を環境目標として定め、
その達成に向けグループ全体で取り組みました。

1	水の使用量を2003年度より、出荷重量対比で1%削減する。
2	食品廃棄物の再生利用等の実施率を90%にする。
3	電力消費量を2003年度より、出荷重量対比で1%削減する。
4	石油系燃料（灯油・重油）の使用量を2003年度より、 出荷重量対比で1%削減する。

生産工場における環境負荷の概要

下図は、2004年度のフジッコグループの生産工場における環境への負荷をフローの形で表したものです。なお、(　)内は2003年度の数値を示しております。原材料と水、エネルギーがインプットされ、佃煮、煮豆等の製品が生産されます。生産活動の結果、アウトプットとして、水系に排水、大気系にCO_2、NOxが放出され、また廃棄物が排出されます。

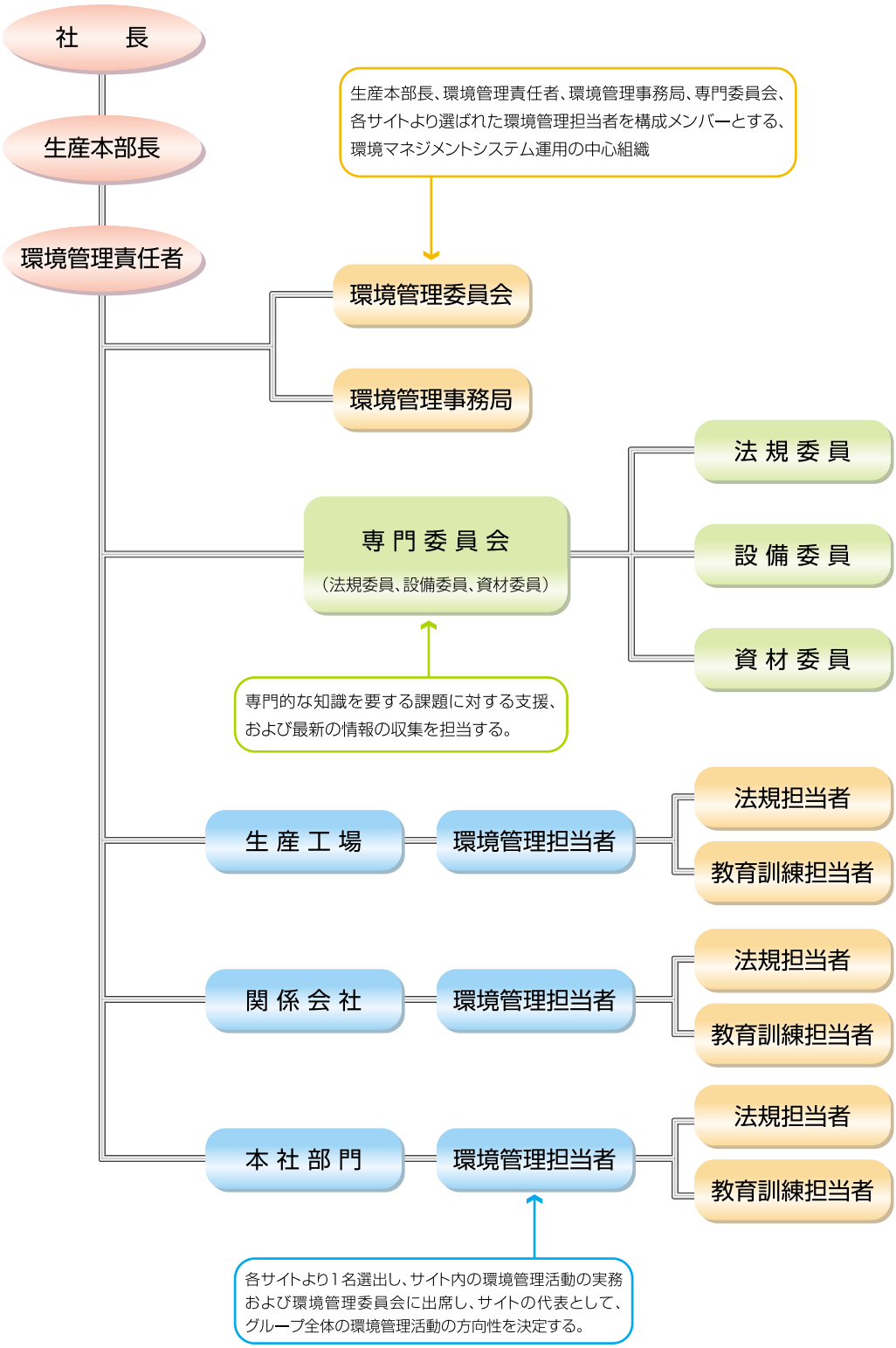
このような生産活動による環境負荷を低減するため、生産部門を中心とする環境マネジメント組織により「環境目標達成のための活動」「環境負荷低減のための設備投資」「環境教育と地域貢献活動」を実施いたしました。



環境マネジメント組織

環境に与える影響が最も大きい生産部門を中心とする
環境マネジメント組織で環境負荷低減のための活動を行いました。

■フジッコグループ　環境マネジメント組織



環境目標の達成状況

環境基本方針の精神に基づいて定めた環境目的の達成のため、2004年度の環境目標を設定し、環境負荷の低減に取り組みました。

水使用量の削減

目標	実績
水の使用量を前年より、出荷重量対比で1%削減する	前年対比1.9%削減 ⇒達成

■達成状況

●和田山工場、関東工場、鳴尾生産事業部1･2課、東京生産事業部、フジッコワイナリー（株）、本社部門において目標を達成し、グループ全体では1.9%の削減となりました。

●和田山工場では、レトルト殺菌装置の冷却水をボイラー水として再利用することにより、水の使用量を削減しました。

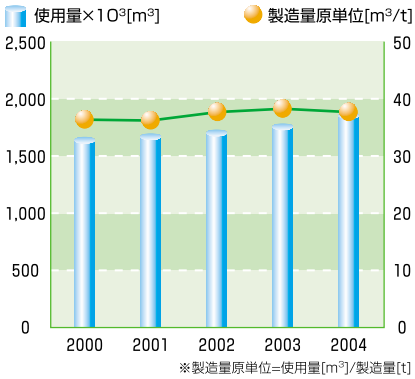
●東京生産事業部では、佃煮煮熟装置の洗浄水に圧縮空気を混合することにより、水の使用量削減を実現しました。

●鳴尾生産事業部3課では、新たにヨーグルトの生産が始まったため、水の使用量が増加しました。

■2005年度の取り組み計画

●水の使用量が多い工程の作業方法を見直すことで、水の使用量削減を行います。

●新商品については、生産ラインの効率化を図り、水の使用量を抑制します。



■事業所別の水の使用状況

●過去5年間（2000年度～2004年度）の事業所別の水の使用状況は、下記のとおりであります。

工場・事業所名	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
和田山工場	320,613	354,268	366,400	348,677	318,763
関東工場	382,055	332,517	321,833	348,715	401,352
鳴尾生産事業部1･2課	223,041	229,152	215,611	248,695	223,630
鳴尾生産事業部3課	29,721	31,352	20,732	17,592	25,838
東京生産事業部	140,098	168,246	213,896	235,426	242,430
フジコン食品	333,800	360,000	289,798	266,292	291,106
フジッコワイナリー	24,292	21,687	27,856	28,693	27,488
フジッコフーズ	185,028	192,526	263,006	271,550	284,696
本社	11,540	11,190	9,893	9,575	7,844
合計 ※単位[m³]	1,650,188	1,700,938	1,729,025	1,775,215	1,823,147
出荷重量 ※単位[t]	44,675	47,143	46,110	46,162	48,331
原単位 ※単位[m³/t]	36.94	36.08	37.50	38.46	37.72

食品廃棄物の削減

目標 食品廃棄物の再生利用等の実施率を90%にする

実績 実施率 84.7%
⇒未達成

■達成状況

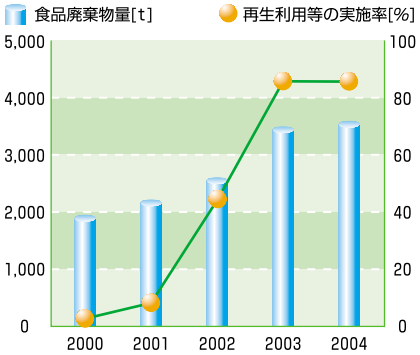
●和田山工場、関東工場、東京生産事業部、フジッコフーズ（株）は、目標を達成しましたが、グループ全体では、再生利用の実施率84.7%と目標を達成することができませんでした。

●フジッコワイナリー（株）では、製造トラブルが発生した際に廃棄した食品廃棄物の影響で、再生利用等の実施率が昨年より低下しました。

■2005年度の取り組み計画

●再生利用が行われていない工場については、再生利用の実施を開始します。

●食品廃棄物量自体を減少させる活動を行います。



※再生利用等の実施率=再生利用[t]/食品廃棄物量[t]

■事業所別の食品廃棄物の再生利用等の実施状況

●過去5年間（2000年度～2004年度）の事業所別の食品廃棄物の再生利用等の実施状況は、下記のとおりであります。

工場・事業所名	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
和田山工場	0	0	0	59.88	100.00
関東工場	0	0	100.00	100.00	100.00
鳴尾生産事業部1・2課	0	0	0	0	0
鳴尾生産事業部3課	0	0	0	0	38.44
東京生産事業部	45.09	78.35	84.29	89.71	91.90
フジコン食品	0	0	0	0	8.72
フジッコワイナリー	0	22.18	30.01	77.15	27.67
フジッコフーズ	0	0	0	100.00	100.00
合計 ※単位[%]	2.71	13.16	43.55	84.33	84.70

電力消費量の削減

目標 電力消費量を前年より、出荷重量対比で1%削減する

実績 前年対比0.8%増加 ⇒未達成

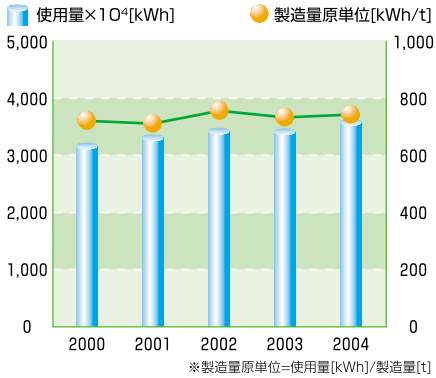
■達成状況

●鳴尾生産事業部1･2課、同3課、フジッコワイナリー（株）、フジッコフーズ（株）において、目標を達成することができましたが、グループ全体では目標を達成することができませんでした。

■2005年度の取り組み計画

●生産ラインの効率化を図り、電気の使用量削減をさらに行います。

●生産機器へのタイマー設置、間欠運転をさらに進めていきます。



■事業所別の電力の使用状況

●過去5年間（2000年度～2004年度）の事業所別の電力の使用状況は、下記のとおりであります。

工場・事業所名	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
和田山工場	6,691,621	6,506,504	6,182,700	6,110,740	6,098,730
関東工場	5,769,960	5,918,058	6,105,360	6,211,584	7,572,755
鳴尾生産事業部1･2課	6,439,150	6,667,949	6,658,420	6,427,500	6,096,580
鳴尾生産事業部3課	1,012,731	1,272,937	1,237,642	1,023,093	1,266,470
東京生産事業部	3,362,615	4,313,723	4,872,315	5,122,463	5,699,180
フジコン食品	3,133,260	3,109,720	2,985,970	2,767,750	2,892,072
フジッコワイナリー	983,688	953,058	963,282	934,020	1,004,730
フジッコフーズ	3,838,784	3,822,864	4,439,004	4,260,377	4,099,752
本社	1,459,571	1,296,183	1,228,030	1,205,290	1,217,443
合計 ※単位[kWh]	32,691,380	33,860,996	34,672,723	34,062,817	35,947,712
出荷重量 ※単位[t]	44,675	47,143	46,110	46,162	48,331
原単位 ※単位[kWh/t]	731.76	718.26	751.96	737.90	743.78

石油系燃料使用量の削減

目標 灯油・重油の使用量を前年より、出荷重量対比で1%削減する

実績 前年対比6.5%削減 ⇒達成

■達成状況

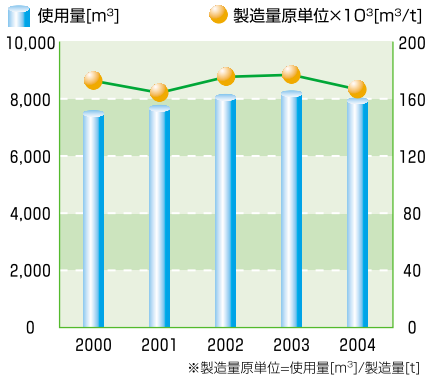
●関東工場、鳴尾生産事業部1・2課、フジッコフーズ（株）において目標を達成し、グループ全体では前年対比6.5%の削減となりました。

●関東工場において、コージェネレーションの運転を開始し、その排熱利用に取り組んだ結果、前年より出荷重量対比で16%削減と石油系燃料の使用量を大幅に削減することができました。

■2005年度の取り組み計画

●和田山工場において、コージェネレーションを導入し、その排熱利用に取り組みます。

●ボイラーで発生させた蒸気を有効活用するため、排熱回収の効率化の検討と蒸気ロスの防止に取り組みます。



■事業所別の石油系燃料の使用状況

●過去5年間（2000年度～2004年度）の事業所別の石油系燃料の使用状況は、下記のとおりであります。

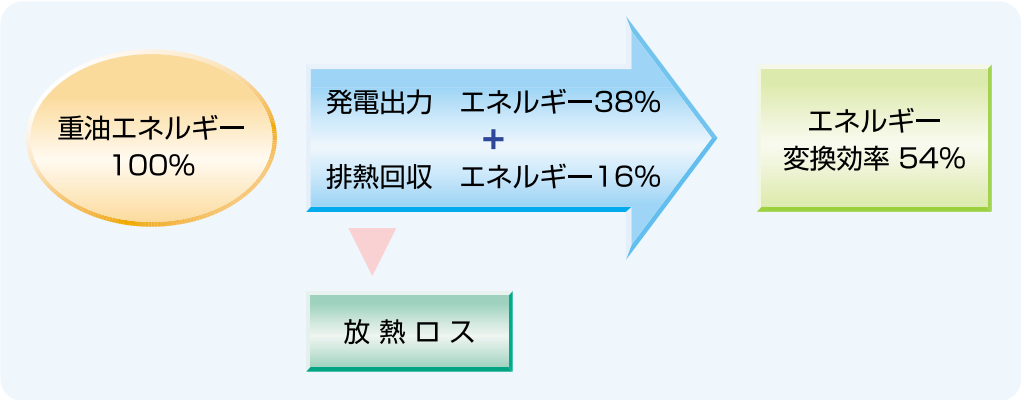
注）東京生産事業部および本社では、石油系燃料を購入しておりません。

工場・事業所名	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
和田山工場	2,401	2,306	2,296	2,204	2,186
関東工場	1,858	1,830	1,780	1,914	1,884
鳴尾生産事業部1・2課	2,166	2,111	2,192	2,010	1,862
鳴尾生産事業部3課	98	135	139	122	167
東京生産事業部	–	–	–	–	–
フジコン食品	319	323	306	386	450
フジッコワイナリー	138	148	168	159	184
フジッコフーズ	599	864	1,193	1,389	1,276
本社	–	–	–	–	–
合計 ※単位[m³]	7,579	7,717	8,074	8,184	8,009
出荷重量 ※単位[t]	44,675	47,143	46,110	46,162	48,331
原単位 ※単位×10³[m³/t]	170	164	175	177	166

環境負荷低減のための設備導入

■コージェネレーションシステム導入（関東工場）

関東工場では、コージェネレーションシステムを導入し、2004年5月より本格稼動を開始いたしました。このシステムは、重油を燃料としたエンジンを運転することにより得られるエネルギーを発電機により電気に変換すると同時に、エンジンから発生する排熱を排ガスボイラーと温水回収装置により、蒸気と温水に変換することでエネルギーを有効利用し、CO_2排出量を削減することができます。
2004年度は、投入エネルギー100%に対して54%（発電出力+排熱回収）のエネルギー変換効率でコージェネレーションシステムの運用を行い、電力会社から購入した場合と比較して有効にエネルギーを利用することができました。また、エネルギーを有効利用することにより、電力会社から電力を購入した場合と比較して19.5%のCO_2を削減することができました。



コージェネレーションシステムの稼動により、関東工場における石油系燃料の製造量原単位を前年より16%減少することができ、コージェネレーションシステム導入の効果が現れました。
2005年度は、引き続き、和田山工場への展開を予定しております。

設備概要:
発電機720kW×2基
排ガスボイラー 600kg/H×1基

環境教育

■全体教育の実施

従業者を対象に、ISO14001、食品リサイクル法、ごみの分別、節水、節電など、工場が直面している事項をテーマに取り上げ、教育を行い、従業者ひとりひとりが、環境管理活動に参加できるよう啓発いたしました。

■外部講習会への参加

環境に関する知識の取得と問題解決の手法を学習することを目的として、外部団体が主催する講習会に積極的に参加しております。また、事業所に外部の講師を招いて、環境問題に関する勉強会を開催いたしました。

■2004年度に参加した主な外部講習会

主　　催	事　業　所	内　　容
兵庫県食品産業センター	本　　社	環境一般のセミナー
但馬環境保全連絡協議会	和田山工場 フジコン食品（株）	環境一般のセミナー
（株）アメフレック	鳴尾生産事業部3課	外部講師を招いた勉強会

地域貢献活動

■地域清掃活動への参加

地域社会とともに環境維持に努めていくため、「但馬5万人クリーン作戦」や「船橋530（ゴミゼロ）の日」のような地域の公共団体が主催する清掃活動に積極的に参加いたしました。

■2004年度に参加した主な地域清掃活動

主　　催	事　業　所	内　　容
但馬5万人クリーン作戦推進事務局	和田山工場	工場周辺および円山川河川敷周辺の清掃
千葉県美しいふるさとづくり運動推進協議会	東京生産事業部	船橋市内の清掃
境　港　市	フジッコフーズ（株）	工場周辺、国道431号線沿いの清掃
勝　沼　町	フジッコワイナリー（株）	中央高速道側道の清掃
鳴尾工業団地自治会	鳴尾生産事業部1・2課	工業団地周辺の清掃
神戸ファッションタウン協議会	本　　社	ポートアイランド内市民広場の清掃

環境保全に関する取り組みの歴史

1960	神戸市東灘区にて（株）富士昆布創業
1985	（株）富士昆布から現社名フジッコ株式会社へ社名変更 創業25周年を記念、全国に緑の松を植樹「フジッコ松」寄贈活動を開始
1994	フジッコワイナリー　排水処理の汚泥を肥料として出荷開始 関東工場　食品廃棄物の一部を外部にて肥料化
1996	関東工場　嫌気性排水処理施設導入
1997	鳴尾生産事業部　嫌気性排水処理施設導入
1998	和田山工場　嫌気性排水処理施設導入 フジッコワイナリー　焼却炉廃止
1999	和田山工場　焼却炉廃止
2000	環境問題プロジェクトチーム設置
2001	和田山工場　ISO14001認証取得 東京生産事業部　ISO14001認証取得 東京生産事業部　嫌気性排水処理施設導入 関東工場　焼却炉廃止 東京生産事業部　食品廃棄物の全量を外部にて肥料化 フジッコワイナリー　糖廃液を肥料の発酵促進剤として出荷開始 フジコン食品　焼却炉廃止（全工場で小型焼却炉廃止）
2002	フジコン食品　ISO14001認証取得 フジッコフーズ　嫌気性排水処理施設導入 生産本部　環境管理委員会設置
2003	フジコン食品　嫌気性排水処理施設導入 「2003環境報告書」　発行 和田山工場　食品廃棄物を外部にて100%肥料化
2004	関東工場　コージェネレーションシステム導入 「2004環境報告書」　発行

■排水処理施設の導入

工場からの排水は、全工場で排水処理施設により処理しております。また、より省エネルギーで運転でき、余剰汚泥の減少ができる嫌気性排水処理施設を和田山工場、関東工場、鳴尾生産事業部1・2課、東京生産事業部、フジコン食品（株）、フジッコフーズ（株）に導入いたしました。

■焼却炉の廃止

小型焼却炉を使用してゴミを焼却した場合、健康に悪影響を及ぼすダイオキシンが発生する恐れがありますので、2001年度に全ての工場の小型焼却炉を廃止いたしました。

■ISO14001認証取得

2001年9月に、煮豆・佃煮業界では初めて和田山工場、東京生産事業部がISO14001の認証を取得いたしました。また、2002年には、関係会社のフジコン食品（株）がISO14001の認証を取得いたしました。

事業所近隣の方からのご指摘について

各事業所では、環境に配慮した生産を行うように努めておりますが、事業所近隣の方より、事業所内で気がつかないような環境影響について、ご指摘を受けることがございます。
このような近隣の方からのご指摘について、ひとつひとつ改善していくことで、より精度の高い環境管理を行っていきたいと考えております。
過去3年間（2002～2004年度）の近隣の方からの環境に関するご指摘は、以下の通りです。

ご指摘内容	年度	事業所	対策
汚泥乾燥時の水蒸気の臭気	2002	和田山工場	汚泥の乾燥に使用する「ドライヤー運転手順書」を作成し、常に水蒸気や臭気の少ない運転ができるようにした。
早朝のアイドリングの音	2002	和田山工場	従業員への教育と、夜間・早朝は民家に近い構内への駐車を禁止した。
フォークリフトの警告音	2002	鳴尾3課	警告音を消した。
工場の植木の枝が近隣住宅の敷地内に入っている	2002	鳴尾3課	植木の剪定を行った。
TVケーブルが近隣敷地内に入っている	2002	鳴尾3課	TVケーブルの移設を行った。
排出水の基準違反（行政より）	2002	フジコン食品	佃煮煮熟時のふきこぼれが原因で、ふきこぼれをなくした。（その後、排水処理施設の能力を増強した。）
排出水の基準違反（行政より）	2002	フジッコフーズ	排水処理施設の増設を行った。
排出水の水量変動に対する連絡の不備	2002	フジッコフーズ	生産数量が増加する場合、行政に対して事前連絡を行うようにした。（その後、排水処理施設の能力を増強させ、処理水を直接河川に放出している。）
アイドリングの音	2003	鳴尾3課	アイドリングストップ看板を設置し、関連運送会社にも通達を出した。
工場外部排出水用側溝より水漏れが発生している	2003	フジッコワイナリー	側溝の補修工事を行った。
排水処理場の配管の腐食による隣接工場への排水の流出	2003	鳴尾1・2課	排水処理場の配管の材質を鉄製からステンレス製に変更し、破損が生じないように補修した。
工事の騒音	2003	和田山工場	近隣へ影響が出ると想定される工事を実施する場合は、事前に防止策を行い、近隣の方々に連絡を行うようにした。
深夜の配管工事の音	2004	鳴尾3課	深夜に屋外での配管工事を禁止した。
夜間の空調機の音	2004	鳴尾3課	夜間は給排気ファンを止め、排気ファンのみの運転とした。
アイドリングの音	2004	鳴尾3課	トラックの待機場所を変更した。
業者車両による通行妨げ	2004	和田山工場	関係業者に対し、駐車場所、駐車方法について指導した。
排気ファンの音	2004	関東工場	防音用シートを設置した。
機械油の流出（行政より）	2004	フジコン食品	機械付近の防油提の改修を行った。
第3者からの当社敷地内への廃棄物の投棄による景観の乱れ	2004	鳴尾1・2課	投棄された廃棄物を処分後、フェンスを設置し、廃棄物を投棄されないようにした。

2005年度の環境目標

2004年度は、水の使用量の削減、食品廃棄物の再生利用率の向上、電力消費量および石油系燃料の使用量の減少に取り組んできた結果、電力消費量の削減および食品廃棄物の再生利用率の向上は達成できませんでしたが、水および石油系燃料の使用量の削減については、目標を達成することができました。
環境目的の達成のため、2005年度も引き続き、水の使用量の削減、食品廃棄物の減少、電力消費量および石油系燃料の使用量の減少に継続して取り組み、目標を達成するよう努力してまいります。

1	**水の使用量を2004年度より、出荷重量対比で1%削減する。**
2	**食品廃棄物の再生利用等の実施率を90%にする。**
3	**電力消費量を2004年度より、出荷重量対比で1%削減する。**
4	**石油系燃料（灯油・重油）の使用量を2004年度より、出荷重量対比で1%削減する。**

2005年度の行動計画

2004年度は、ISO14001規格に基づいた全社共通の環境マネジメントシステムの構築を目指しておりましたが、十分な活動を行うことができませんでした。
2005年度は、引き続き環境マネジメントシステムのしくみとして、「法規制遵守の確認を確実に行えるしくみ」、「社員への教育・訓練のしくみ」をつくるとともに、環境目標の達成に向け、環境マネジメントプログラムを推進してまいります。

1	**法規制遵守の確認を確実に行えるしくみづくりを行う。**
2	**社員への教育・訓練のしくみづくりを行う。**
3	**環境マネジメントプログラムを推進する。**

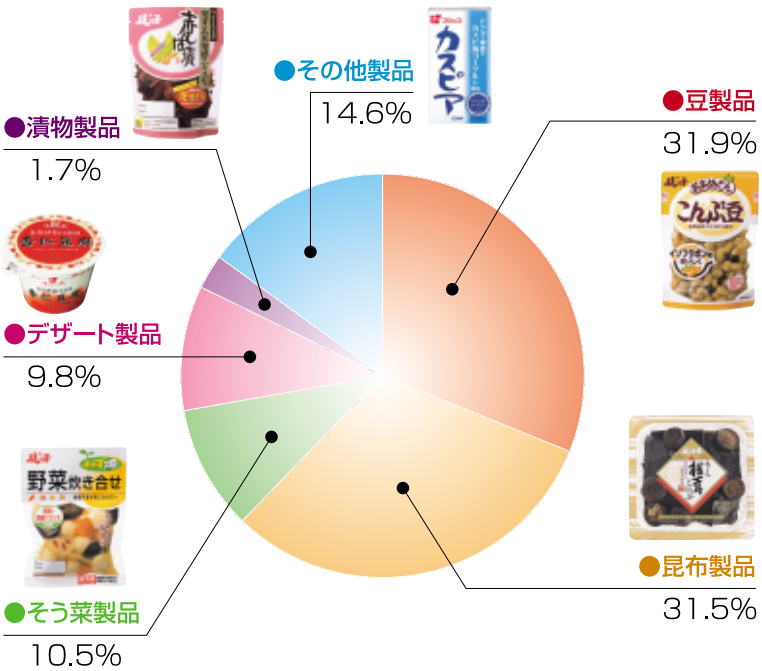
次回（2005年度版）の環境報告書は、2006年8月の発行予定です。

会社概要

会社名	フジッコ株式会社
代表取締役社長	福井　正一
本社所在地	神戸市中央区港島中町6丁目13番地4
本社電話番号	078-303-5911（代）
創業	1960年11月7日
資本金	65億6,653万円（2005年3月31日現在）
従業員数	2,354名（フジッコグループ全従業員）
売上高	連結:471億円（2005年3月期） 単独:465億円（2005年3月期）
事業内容	豆製品、昆布製品、そう菜製品およびデザート製品等を主体とした食品加工業
事業所	本社:兵庫県神戸市 東京FFセンター:東京都文京区 営業所:札幌、仙台、宇都宮、水戸、新潟、埼玉、東京、京葉、多摩、神奈川、静岡、名古屋、金沢、京滋、西宮、阪南、北大阪、神戸、広島、高松、福岡 物流センター:兵庫1、埼玉1 工場:兵庫3、埼玉1、千葉1、神奈川1
関係会社	フジコン食品（株）、フジッコワイナリー（株）、味富士（株）、フジッコフーズ（株）、（有）菜彩、青島富吉高食品有限公司

売上構成

（2005年3月期連結実績）



http://www.fujicco.co.jp/

問い合わせ先／〒650-8558 神戸市中央区港島中町6丁目13番地4　フジッコ株式会社 経営企画室　TEL 078-303-5921

フジッコ